

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和5年11月29日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■GLAMAいきいきネットワーク 揖斐で県研修会開催

10月30日、女性農業者で構成されるGLAMA（Gifu Lady Agriculture Management Adviser）いきいきネットワークの全体研修会が大野町、揖斐川町で開催され関係者約80名が出席した。

全体研修会は、年毎に各ブロックで持ち回り開催され、今回は西濃ブロックの揖斐地区での開催となった。午前中はかき選果場及びかき園の現地視察を行い、午後からは揖斐総合庁舎で、農業普及課担当による水出し緑茶の美味しい飲み方やかきの品種の特徴などについて試飲・試食をしながら研修を行い、揖斐郡の農業について学んだ。農業普及課では、今後も継続的に女性農業者の活動を支援していく。



【講義の様子】

■農福連携 農福連携揖斐地域連携会議開催

11月20日、令和5年度農福連携揖斐地域連携会議を開催し、農業及び福祉の関係者が参集した。農業経営課担い手対策室およびぎふアグリチャレンジ支援センター農福連携推進室から県の施策やマッチングの拡大について説明を受けた後、春日茶で農福連携に取り組む農業者と福祉事業者から農福連携の持つ意義と可能性について話を聞くことができた。今後の推進に向けて、連携会議メンバーが考える機会に繋がった。



【推進会議の様子】

■4Hクラブ いび川マラソンで出店

11月12日、いび川マラソンが開催され、4Hクラブ員が、自分たちが生産した農産物、加工品等の販売を行い、県内外を含めた多くの来場者に、地元の農産物や地域の農業、会の活動をPRした。

今後も地元の農業や農産物のPR、販売に関する情報収集、仲間づくり等を目的にいび川マラソンでの出店を続ける予定で、農業普及課もクラブ活動の活性化のため、支援を行っていく。



【販売の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■大豆 実証ほ場の成熟期調査を実施

11月15日、揖斐川町の大豆実証ほ場で、収穫前の成熟期における生育状況の調査をJA等関係者とともに行った。地域では米・麦・大豆の2年3作の繰り返しによる地力低下や土壌養分不足による収量低下が懸念されており、持続可能な農業生産に向け、有機質肥料体系の実証を行っている。今後、収量や品質の調査結果と合わせて検討し、地域の栽培方針の決定に活用していく。



【生育調査の様子】

■いちご ほ場巡回及び研修会の開催

11月9日、28日に揖斐川町、大野町のいちご組合がほ場巡回研修会を行った。ほ場巡回には、試験場の研究員や市場関係者等も参加し、生育状況や収穫開始時期の確認などを行った。その後の栽培管理の研修会は、組合員同士の幅広い情報交換の場となり、有意義な研修となった。

これから収穫時期を迎え、本格的な出荷シーズンに突入するため、農業普及課では、引き続き組合活動を通じて、産地の拡大や発展を支援していく。



【現地巡回の様子】

■AS I A G A P トレサビリティテスト等の実施

11月22日、(農)桂茶生産組合が取り組むAS I A G A P管理点と適合基準に基づくトレサビリティテストが行われた。

輸出先国における検査で残留農薬基準値を超過したと想定し、出荷農家及びほ場を特定するとともに、出荷先への連絡から商品回収及び商品の処分までのテストを行った。

今回のテストでは、いずれも記帳が正しく行われていたことで、問題なくスムーズに行うことができた。日頃の徹底した管理の重要性が理解されたテストであった。

農業普及課では、引き続きGAPの適正運用を支援していく。



【GAPテストの様子】

地域資源を活かした農村づくり

■金ごま 反省会の開催

11月29日、金ごま部会の反省会がJAいび川揖斐営農経済センターで行われた。各部会員から今年度の栽培状況の報告に続き、実需者から生産物の品質等に対する評価を報告された。また、農業普及課からは、気象経過と栽培概況、次年度の改善策等について説明を行った。台風7号による倒伏により、一部の部会員では収量が減少したものの、高い単収を維持できている部会員も数名あり、来年に向けた生産意欲を高める会となった。



【反省会の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■徳山なんば 揖斐高等学校でレシピ試食評価を実施

11月17日、揖斐高等学校生活環境科食物コースの生徒が考案した徳山なんばを利用したレシピの試食評価会が行われた。

前年開発した「徳山なんばコロッケ」が道の駅星のふるさとふじはしのレストランで好評を得ており、今回は井物が研究された。徳山なんば振興協議会長、西濃建設(株)他、関係者で評価を行い、徳山なんばの辛みと旨味を生かしたヤンニョムソースを絡めた鶏肉、豚肉、エビの丼が好評価であった。農業普及課はメニュー開発に向け、徳山なんば振興協議会と学校の調整を行っており、今後はメニュー化されるよう支援していく。



【研究発表の様子】